

六根清浄大祓

(110)

ふことなし
無上靈宝
神道加持

あまてらすすめおおかみ
天照坐皇大神の宣はく
ひとすなわ
人は則ち天下の神物なり
す
須べからく掌しずまることつかさどる心は則ち
かみとかみと
神明の本主たり
わがたましい
心神を傷ましむること莫かれ是の故に
め
眼に諸の不浄を見て心に諸の不浄を見ず
み
耳に諸の不浄を聞きて心に諸の不浄を聞かず
はな
鼻に諸の不浄を嗅いで心に諸の不浄を嗅がず
くち
舌に諸の不浄を味わいて心に諸の不浄を味わはず
み
身に諸の不浄を触れて心に諸の不浄を触れず
こころ
意に諸の不浄を思ひて心に諸の不浄を想はず
とき
是の時に清く潔よき偈あり
もろもろ
諸の法は影と像の如く清く浄よければ
かり
仮にも穢がるることなし説を取らば得べからず
みなはな
皆因よりして業とは生る我が身は則ち
ろつこんしようじよう
六根清浄なり
ろつこんしようじよう
六根清浄なるが故に五臓の神君安寧なり
ごぞう
五臓の神君安寧なるが故に天地の神と同根なり
あめつち
天地の神と同根なるが故に万物の霊と同根なり
ばんぶつ
万物の霊と同根なるが故に為す所願として成就せずと云